

7道県の被害総額は16-25兆円に上るとか。阪神淡路を越えますが、私たちは乗り越えてこられました。今回も、みんなで力を合わせて、乗り切って、世界に日本の民力を見せつけましょう。

○メンバーから、記事のコピーを頂戴しました。

中日新聞記事に、送りたいけど西日本から東には電力が送れない事情が説明されています。2003年以降一箇所しか増設されていなどは、なんとも。

朝日新聞記事は、九州の玄海原発の防災計画改定が検討されているという。全国の原発の防災計画も今回の事例を教訓に有効で実効性のある計画に改定されることが望まれます。全国展開をされている企業では、各地の原発防災計画の確認が必要になりませんか。

### (中日新聞)

#### 計画停電は西からの送電に限度 周波数変換施設3カ所のみ

2011年3月14日 朝刊

14日から計画停電を実施する東京電力では、同社管内で1000万キロワット程度の電力が不足する見通しだが、中部電力を含めた西日本の電力会社が送電できるのは100万キロワットが限界だ。日本の東西で電気の周波数が異なり、国内に3カ所しかない変換設備を通さないと送電できないためだ。

周波数は静岡県を境に、中電以西の電力会社7社が60ヘルツ、東京電力以東の3社が50ヘルツと分かれている。明治時代に輸入した発電機が、東日本は50ヘルツのドイツ製、西日本は60ヘルツの米国製と異なっていたのが背景にある。



周波数変換設備は、電源開発の佐久間周波数変換所(浜松市天竜区、容量30万キロワット)と東京電力の新信濃変電所(長野県朝日村、同60万キロワット)に加え、2006年3月に中電の東清水変電所(静岡市清水区)が運用を開始した。

東清水変電所の周波数変換設備には30万キロワットの容量があるものの、高圧送電線の建設が遅れており、フル稼働できるのは高圧送電線完成後の14年12月だ。今は既存の送電線を延長して対応しているが、送電できるのは10万キロワットが限度だ。

中電は震災直後の11日から既に、運転計画がなかった発電設備を稼働し、余剰電力を東日本に送電している。中電は「既に送電可能な最大量を東日本に送っている状態」と説明。中電の発電設備の能力は、東日本への送電を続けても電力供給に余裕がある状態という。

### 玄海防災 見直し急げ

朝日新聞佐賀 Asahi.com 2011年03月21日

東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原発(福島県)は、20日も3号機の原子炉格納容器内の圧力が一時高まるなど予断を許さない状況が続き、懸命の鎮圧作業が行われている。こうしたなか、玄海原子力発電所(玄海町)を運転する九州電力が新たな対策に着手。福島県では想定を超える範囲の住民が避難を強いられているため、県内各市町からはEPZの拡大など防災計画の見直しを求める声が高まっている。

大震災発生から1週間がたった18日午後2時半。県庁来賓室で古川康知事と面会した九州電力の段上守副社長は開口一番、「ご心配をおかけしていることをお詫びします」と陳謝した。その後、福島第一原発の現状と、玄海原発で設備の再点検などを始めたことを説明。古川知事は終始厳しい表情で聴き入った。

九電の説明によると、これまでに福島第一原発で機能しなくなった非常用のディーゼル発電機や炉心冷却設備について、玄海

原発で再点検を実施。段上副社長は、同原発に新たに電源車を3台配備するなどの対策を取ったことや、発電機の代替電源を配備することも検討していることなどを報告した。九電では、非常用発電機を津波の被害を受けにくい高い場所に移設することも検討している。

県内の各市町では、原発事故を想定した防災計画を見直す動きが出ている。

玄海原発がある玄海町の岸本英雄町長は、現在、原発から半径10キロ圏内のEPZを半径20～30キロ圏に拡大する考えを示した。「県と相談しながら見直したい」という。

唐津市の坂井俊之市長も市議会で「市の地域防災計画を見直す必要がある」と表明した。EPZの拡大のほか、原発事故発生時の避難所も見直す考えだ。現在の市防災計画では、28カ所ある避難所のほとんどが原発から10～20キロ圏内にあるため、さらに遠方に移す必要があるという。

同市はすでに、隣接の福岡県糸島市と地震、津波、原発事故を含めた防災相互援助協定(仮称)締結のための協議を開始。近く伊万里、多久両市とも話し合いを始める。

朝日新聞社が県内全20市町の防災担当者らに聞いたところ、原発事故を想定した計画がある玄海町、唐津市を除く18市町のうち、伊万里、武雄両市が「原発事故を想定した防災計画に見直す予定がある」と回答。このほか9市町の担当者が「見直しの必要性を感じている」と答えた。

伊万里市は玄海原発に一番近い場所で約12キロと、市全域が10キロ圏外にある。これを30キロ圏に広げると市の面積の約9割が含まれることになる。ただし、伊万里市の見直しは県が地域防災計画のEPZを拡大することを前提としており、市は20～30キロ圏内に拡大するよう県に求める方針だ。

国の原子力防災指針を準用し、「県地域防災計画」で玄海原発から半径10キロ圏内をEPZに定めている県も、福島第一原発の事故で広範囲の住民が避難や屋内退避を迫られている点に困惑する。

計画では、事故対策を詳細に定めておくEPZに含まれるのは玄海町と唐津市の一部だけ。強い放射線を浴びる危険がある際に住民が服用する安定ヨウ素剤の配布方法なども、定めがあるのはEPZ内のみだ。

一方、半径30キロ圏内にあり、現行計画でEPZ外の伊万里市の位置づけは「(原発などについて)広報を重点的に実施する関係市」ととどまる。他の自治体には言及すらく、住民らの救護の段取りなどを定めた「県緊急被ばく医療マニュアル」もEPZ外の被災は想定していない。

市町から計画修正を求める声が上がると、自治体の計画は国の指針と連動して作られており、県は国の再検討作業を待っているのが現状だ。県消防防災課の池田直博課長は「福島の事故が収束するまで計画見直しは議論



しょうがない。国が今回、どういう判断で避難地域を広げたのか、我々はその情報すら持っていない」と話した。

●EPZ(防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲) 原子力災害が起きたとき、行政や各機関がどう対応するかを具体的に計画しておく地区のこと。国は原子力防災指針で、原発から半径8～10キロとの基準を示しており、佐賀県は玄海原発から半径10キロをEPZとしている。

○塾長経由で目黒消防署福署長の阿部様が個人的に発行しておられる「防災今日の話題」の配信をいただきました。

皆様への回覧許可をいただきましたので、抜粋ですが関係箇所を回覧させていただきます。(阿部様提供ファイル)

ご苦労された消防隊員の記事を中心に抜粋しました。これぞ、プロの仕事ぶりです。見習うことが多くないでしょうか？

あわてて水をかけるような計画になっていませんか、皆さんの危機管理計画やBCPは？

## 東京消防庁、被曝と戦い放水…家族「救世主に」

読売新聞 3月21日(月)3時7分配信

目に見えない「放射能」との戦い――。

東京電力福島第一原子力発電所に派遣され、3号機の使用済み核燃料の一時貯蔵プールに放水した東京消防庁の緊急消防援助隊は、被曝(ひばく)の危険にさらされながら、懸命の活動を続けた。同隊隊長らが行った19日の記者会見から、「恐怖の連続だった」という7時間半の任務が明らかになった。

18日午後5時過ぎ。同隊が現場に到着すると、想像もしていなかった光景が広がっていた。

事前の計画では、3号機そばの岸壁から送水車を使って海水をくみ上げ、高さ22メートルから放水できる「屈折放水塔車」を投入する予定だった。しかし、周辺は津波に流された大量のがれきが散乱。送水車が岸壁に近づくことすらできない。

いったん撤退し、作戦を変更。3号機よりもさらに北側にある1号機の北東から海水をくみ上げることになった。ただ、屈折放水塔車まで海水を送るため必要なホースの長さは、約800メートル。車両に乗ったままホースを延ばしていったが、がれきに阻まれ、残り約350メートルは隊員が外に出て、手作業で連結するしかなかった。

当時、3号機周辺の放射線量は60ミリシーベルト。極めて高い値に達しており、作業が長引けば、隊員たちが被曝する恐れが高くなる。

「いかに短時間で活動させるかを考えた」。高山幸夫隊長(54)は、防護服を着用した約20人のハイパーレスキュー隊員を率いて、長さ50メートルで100キロ近い重さのホース7本をかつぎ、手作業で連結していった。

近くでは、放射線量を測定する別の隊員らが見守っている。作業時間は15分間。ようやく総延長800メートルのホースが一本につながった。

送水作業が始まったのは、現場到着から7時間半後の19日午前0時30分過ぎだった。1分当たり約3トンもの大量の海水が、勢いよく3号機棟内にある貯蔵プールめがけて放水された。

厳しい任務が終わった19日深夜、東京・大手町で行われた記者会見。同隊の佐藤康雄総隊長(58)は「これから





出勤してくるよとメールしたところ、妻から『日本の救世主になってください』と1行の返事が来ました」と明かした。富岡豊彦隊長(47)は、心配をかけた隊員の家族のことを気遣い、「本当に申し訳ない。おわびとお礼を申し上げたい」と目を赤くして語った。

#### ◆警視庁機動隊「任務を全う」

同原発3号機で17日夜に放水作業を行った警視庁機動隊を指揮した警備2課管理官の大井川典次警視(56)が20日、東京・霞が関で記者会見した。大井川警視は「限られた条件の中で任務を全うできた」と振り返った。

17日午後7時過ぎから約10分間行われた作業では、機動隊の高圧放水車が3号機に向けて計約44トン放水。重さ約10キロの防護服を着用した大井川警視と機動隊員4人が車外で作業にあたったという。

大井川警視は「全力を尽くしてくれた」と機動隊員をねぎらった。また、現場では東京電力社員が誘導などで立ち会ったといい、「危険な現場で黙々と働く姿をみて、少しでも役に立ちたいと思った」と語った。大井川警視は「余計な心配はかけたくない」と出勤前には妻に電話で「福島に行ってくる」と短く伝え、原発のことはふれなかったという。

## 東日本大震災 被曝覚悟の350メートル 消防隊見送る妻「日本の救世主」 産経新聞 3月20日(日)7時58分配信

見えない「敵」との戦いだった。福島第1原発事故で19日未明の放水活動を行った東京消防庁ハイパーレスキューの第1陣が19日夜に帰京。同庁で会見した。廃虚と化した原発内で被曝(ひばく)しながら、ホースを手作業で広げる決死の作業。隊長らは「無事にミッションは達成した」と胸を張る一方、「隊員の家族には心配をかけた」と涙で言葉を詰まらせた。

ハイパーレスキューの富岡豊彦総括隊長(47)が、福島第1原発に最初に足を踏み入れたのは18日午後5時ごろ。特殊災害対策車でどのように安全にミッションをこなせるかを探るのが目的だった。

当初の東京電力側からの情報では、水をくみ上げる海側までは車で近づけるはずだったが、原発内はがれきで埋まり、進入はすぐに阻まれた。

「ホースを手で広げるしかない」。午後7時半から始まった作戦会議。がれきを避け、海から放水車までホースを延ばすには被曝の危険が増す車外で作業を行うしかないという結論に達するまで4時間かかった。

海水を1分間に約3トン送り出すホースは太くて重い。ホースの重さは50メートルで約100キロ。それをロープで引っ張り4人がかりで運ぶ。敷設は約350メートルで、足場は悪く、危険な作業だった。作戦の決行は高山幸夫総括隊長(54)ら約40人の隊員に委ねられた。

「危険度を熟知する隊員の恐怖心は計り知れないが、拒否する者はいなかった」(東京消防庁の佐藤康雄警防部長)。だが、防護服の着用に普段の3倍以上の時間がかかるなど、緊張の色を隠せなかった。

約20人が車外に出た作業。車外作業員には、放射線量を測る隊員から危険度を知らせる声がかかった。「常にそばでバックアップしてくれる仲間がいたからこそ達成できた」と高山隊長。作業は約15分で完了し、屈折放水塔車は白煙を上げる3号機に向け、19日午前0時半、放水を開始。20分で約60トン放水した。





家族には心配をかけたという思いがある。富岡隊長は任務に出る前、「必ず帰ってくるから安心しろ」と妻にメールを送った。妻からは「信じて待ってます」と短い返信があった。佐藤部長は妻に福島行きを伝えると、「日本の救世主になってください」と一言書かれたメールが送られてきたという。

会見で、富岡隊長は「国民の期待をある程度達成できた。充実感がある」と語る一方、作戦に従事した隊員について「家族には本当に申し訳ない。おわびを申し上げたい」と涙ぐんだ。

高山隊長は「家に帰ったら家族と酒を飲みながら反省会をしたい」と笑い、佐藤部長は「恐怖心を克服し任務に当たってくれたことに敬服の念を抱いている」と隊員ら

をねぎらった。

## 見えない「敵」、暗闇、怒声…ハイパーレスキュー隊員が見た放水の現場 産経新聞 3月22日(火)20時43分配信

歴戦の“勇士”たちは冷静に、前向きに「災害」へ立ち向かった。福島第1原発事故で、放射能漏れを起こす3号機への放水活動に従事した東京消防庁ハイパーレスキュー隊の福留一彦消防司令補(44)と國澤健一消防司令補(41)が22日、産経新聞の単独取材に応じた。「再び指令が下れば迷わず飛び込む」。2人は陰い表情で現場の惨状を振り返りながらも、そう力を込めた。(中村昌史)

18日午後11時ごろ。原発に到着した2人が目の当たりにしたのは、無残に破壊され尽くした施設の不気味な姿だった。津波や爆発などで散乱しがれき。建屋が吹き飛んだ1号機と3号機は、鉄骨の骨組みがむき出しになっていた。

「文字通りの真っ暗闇。静寂の中で、隊員の怒声だけが響いていた」

放射能という見えない敵への恐怖心に加え、がれきの山が隊員の行く手を阻んだ。

本来は車両で引き延ばすはずだったホース。爆発で散乱しがれきで車が通れず、隊員が4人1組で約100キロのホースを担ぎ、暗闇の中を駆け抜けた。福留消防司令補が目をこらすと、通り道のマンホールのふたが吹き飛び、口を開けていた。海水をくみ上げるポンプを設置した國澤消防司令補。海に面した岸壁はボロボロで、今にも崩れ落ちそうになっていた。

「一瞬の判断ミスが命取りになる」。シミュレーションを繰り返して乗り込んだはずの現場は“想定外”の連続だったが、隊員同士の励ましが心を支えた。

放射線量を測定し、隊員に被曝(ひばく)の状況を逐一伝えた隊員。原発建屋の数メートルまで接近して、放水塔を準備した隊員。防護服やマスクで声はまともに届かないが、「まだ大丈夫。がんばれ」と互いに声をからした。

被曝の恐れから時計を外して作業にあたったため、時間の感覚は吹き飛んだ。「物すごい早さで時が進んだ。すべてがあつという間の出来事だった」(福留消防司令補)という。

そして、恐怖と苦難が吹き飛ぶ瞬間が訪れる。「いい水が出てるぞ」。19日未明、放水塔から放たれた水が白煙を上げる3号機にかかった瞬間、現場には隊員の大歓声が響き渡った。



無事に帰還した2人だが、家族には多くを語らなかった。

「カミさんも『お疲れさまでした』とだけ声をかけてくれた。消防官の妻は、みんなそんなものです」。國澤消防司令補は、静かにほほえんだ。

「支えてくれた仲間や上司、家族に感謝します。そして、現場で今も奮闘している自衛官、警察官、東京電力のみなさまのことを忘れないでほしい」。2人は声を合わせるように語った。

## 福島原発、電源引き込み作業完了・機器点検急ぐ 読売新聞 3月22日(火)21時15分配信

電源復旧に向けた作業が進む東京電力福島第一原子力発電所は22日、4号機タービン建屋の配電盤兼変圧器まで電気が届いていることを確認し、3系統に分けて進めていた外部電源の送電線引き込みが終わった。

東電は1～4号機の原子炉の冷却機能回復を目指し、原子炉建屋や中央制御室の機器や電気系統の点検を急いでいる。

東電によると、送電線の引き込みは、配電盤兼変圧器をそれぞれ共有する1、2号機と3、4号機、5、6号機の3系統に分けて実施したが、3、4号機の系統は、使用済み核燃料の一時貯蔵プールへの放水を優先したために作業が遅れていた。

しかし、3、4号機は当初の予想と異なり、津波による被害が少なかったため作業がはかどり、共有する中央制御室の照明や計器類のほか、4号機では原子炉などを冷やす「補給水系」のポンプなどが、外部電力によって動かせることを確認したという。

原子炉格納容器下部の圧力抑制室が損傷しているとみられる2号機では、中央制御室の設備とともに、原子炉に冷却水を循環させる系統の機器類の復旧を急いでいる。

一方、東京消防庁の緊急消防援助隊は22日午後3時10分から50分間、3号機の貯蔵プールに向けて、高さ約2メートルの屈折放水塔車で約150トン放水した。作業には大阪市消防局の6人も後方支援役として加わった。

東電も同日午後5時17分、ドイツ社製の生コン圧送機を初めて使って4号機の貯蔵プールへ放水を始めた。高さ46メートルの原子炉建屋を超える長さ58メートルのアームを生かし、高所からの放水が可能。東電が輸入元を通じて一時的に借り受け、操作訓練を受けた東電の関係者が放水作業に当たった。

また、がれき除去のために自衛隊が同原発近くの運動施設に派遣した74式戦車2両については、敷地内に埋設された送電ケーブルなどを傷つける恐れがあることから、当面は現地で待機する見通しとなった。

◆福島第一原発1～6号機の現状

	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	
外部電源	接続完了			配電盤 まで 受電	送電 中	切り 換え 作業中	○ 安定
放水	なし	なし	あり	あり	不要		△ 一部露出
原子炉の 燃料棒の 状態	△	△	△	なし	○		
地震発生 時の状態	運転中			点検のため停止中			

## 「7時間放水を執拗に要求」と猪瀬副知事 経産省は反論、真相はやぶの中 J-CAST ニュース 3月22日(火)20時42分配信

福島原発での消防活動について、東京都の猪瀬直樹副知事がブログで、「7時間放水を執拗に要求された」などと政府側の対応を批判している。経産省の対策本部は、「放水時間は、現場の状況を見て議論して決めた」と反論している。

東京消防庁のハイパーレスキュー隊員が、決死の放水作業後に涙の会見をしたのは記憶に新しい。

#### ■猪瀬氏「現場を知らない」と批判

いったん都内に戻り消防学校に集まった彼らに対し、猪瀬直樹副知事は2011年3月21日、石原慎太郎知事とともに慰労に訪れた。ブログは、そのときに同隊幹部から現場の状況について報告を受けたものを同日中にまとめたものだ。

猪瀬氏は、政府側の対応について、ブログで問題点をいくつか挙げている。

それによると、当初は、4時間の放水予定で、必要があれば再度放水することになっていた。それが、「連続して7時間放水し続けるよう執拗に要求された」というのだ。このため、2台ある放水塔車のうち1台がエンジンの焼き付きで使用できなくなった。

また、海から放水塔車まで給水ホースを800メートルの最短距離に設定していたが、「遠回りにするように執拗に要求された」。さらに、石原知事が菅直人首相に抗議して話題になったが、「俺たちの指示に従えないのなら、お前らやめさせてやる」と処分をちらつかせてとしている。

こうした要求や指示は、原発から約20キロも離れ、無線状態も悪い前線指揮所からあったといい、現場を知らないのに、レスキュー隊に方針変更を度々要求してきたと批判している。また、「政府・東電の指揮命令系統が明確でないことがわかった」とも言い、猪瀬氏は、「職員の命を預かる隊長としては、現場をわかっていない人達に職員の命を預けるわけにはいかない」とその気持ちを代弁している。

これに対し、経産省の原子力災害対策本部では、取材に対し、問題とされたそれぞれの点に反論した。

#### ■経産省は「現場の判断」も強調

7時間放水については、経産省の広報班では、「現場の状況を見ながら、放水時間を対策本部で議論して決めました」と説明する。レスキュー隊の現場と役割分担しながら協力してやっているといい、執拗に要求したわけではないと言いたいようだ。

また、給水ホースの設定は、主に「現場の判断」だったことを明らかにした。広報班は、「放射線量が高く、爆発による飛散物があり、当初考えていた距離ではできませんでした。そのことを本部と連絡しながらやったということです」としている。

レスキュー隊に処分をちらつかせたという点については、海江田万里経産相が会見で、その事実は明言しなかったが、「私の発言で消防の方が不快な思いをされたのなら申し訳なく思う」と陳謝している。

経産省の広報班は、現場を知らなかったなどとの猪瀬直樹副知事の指摘には否定的な見方を示し、「事実確認が足りずに整理しないで書いているようでもありますので、あまり気にしていません」と言っている。

なお、東京消防庁の報道係によると、放水塔車は、エンジン焼き付きではなく長時間運転による排気ガス処理装置の不具合で、14時間ほど使って車両交換した。別の1台で7時間ほど放水したが、予定で4時間しかできなかったわけではなく政府側と協議した結果だという。また、給水ホースの設定は、要求されたわけではなく、爆発によるがれきなどがあつたため、現場での判断で800メートルの距離にしたとしている。

猪瀬氏は、聞き取りの際の誤解もあつたようだ。しかし、指摘のような要求があつた可能性もあり、真相はまだ不明だ。

**【東北地方太平洋沖地震】東京湾で津波が発生した場合の危険性**  
週プレ NEWS 3月22日(火)15時15分配信





3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の余震が続くなか、15日22時31分には、静岡県富士宮市直下10~12kmを震源とするマグニチュード6.4の地震が発生した。

日本列島全体が連鎖している今、「東京湾直下10~20kmの地震が非常に気がかり」と語るのは、ジャーナリストの有賀訓氏だ。

「このような“江戸地震”と呼ばれる東京直下型地震は100年間に1、2回の頻度でおき、M6クラスでも、首都・東京に深刻な被害を及ぼす。なかでも警戒すべきは、東京湾全体で長時間繰り返される津波災害でしょう」

間繰り返される津波災害でしょう」

この現象を『LPG 大災害』(技術と人間社)の著者で、東京大学空間情報研究センター客員研究員・小川進博士(工学)が説明する。

「東京湾内では、洗面器の水を揺らすような“セイシュ”と呼ばれる津波が一日以上続き、たとえ波高が数mでも、海上からの消火活動を不可能にするでしょう」

東京湾岸の石油コンビナート施設には、東北地方の数十倍もの石油・液体ガスのタンクがひしめいている。小川博士は、「三陸各地で起きた石油・ガスタンク火災が、消防活動ができずに燃えるままになったことを忘れてはなりません。東京湾の場合、地震発生初期から連鎖的な火災が発生します」と警鐘を鳴らす。

これ以上、大地震が日本列島で発生しないことを祈るばかりだ。

## 屋形船連合会 防災船着場は緊急時使えず 都との協定、絵に描いた餅！？ 産経新聞 3月22日(火)7時57分配信

大震災などで陸上交通が寸断された場合、救援物資や人員を輸送するために、東京屋形船連合会(台東区)は東京消防庁などと災害時の協定を結んでいる。ところが、拠点となる23区内約100の防災船着場は鍵がかかっていたり、一般の接岸が認められておらず、事実上利用できない。このため、同連合会は非常時に備え、防災船着場の日常的な開放を求めている。

東日本大震災から一夜明けた12日、江東区古石場の船宿「富士見」の船頭、石島広士さん(35)は都内で約10万人が公共施設などで一夜を明かした報道に唇をかんだ。

「こういうときこそ船を出したかった。畳敷きの屋形船なら板張りの体育館よりくつろげる。箱崎(中央区)から千住(足立区)まで隅田川を北上すれば、歩くより早く着く」

都内で直下型地震が起き、陸上交通が寸断されても、船なら神田川沿いや晴海(中央区)、お台場など海に囲まれた地区への救援物資や救急隊員、けが人、帰宅困難者の搬送が見込める。



屋形船は、洗面所や調理場があり居住性が良いこともあり、同連合会は東京消防庁と日本赤十字社と災害時の



協定を結んでいる。

だが、同連合会によると、屋形船が出動したとしても課題は多かったという。

その一つが屋形船に係留する棧橋だ。現在、接岸できるのは晴海、越中島、お台場の3つの公共棧橋のみ。陸上との接点となる約100の水上バス乗り場と防災船着場は一般利用が制限され、ほとんどが施錠されている。

各船宿から、これでは最寄りの防災船着場の位置や大きさなど、救援に必要な知識を蓄積できないと指摘されていた。

設置者と管理者が区、都、国と複雑に分かれ、「訓練しようにも防災船着場の使用は手続きが煩雑な上、屋形船の係留はほとんど許されていない」(連合会)のが現状だ。

石島さんも「ふだんから利用していれば、防災船着場に屋形船がしっかり固定できるかどうか分るし、残りの燃料であと何往復できるか想像もつく」と日常の利用の大切さを訴える。

同連合会はこうした意見を集約し、都や区に対し、水上バス乗り場、防災船着場の開放を求めてきた。「バスと連動した観光事業などで利用できれば、船頭も各地の船着場に慣れて、救急隊員らの誘導が容易になる。災害発生時に寄与できるようにしてほしい」と要望している。

#### 【用語解説】東京屋形船連合会

隅田川、旧江戸川などに事業所がある52の船宿が平成22年4月に設立。約200隻を保有し、総定員数は1万2千人。

## 原発事故 防護服の効果は？ 防げぬガンマ線 洗浄が重要 産経新聞 3月20日(日)7時58分配信

福島第1原発で作業に当たる自衛隊員や従業員らが着用している防護服。被曝(ひばく)を恐れる一般の人からも、取り扱い業者に問い合わせが来始めた。ただ、ほとんどの防護服は今回の事故で放出されている放射線まで防ぐ能力はない。関係者は「きちんと体を洗ったりすることの方が重要。一般の方にはお勧めできない」としている。

福島第1原発の最前線で放射性物質の除染業務に当たる陸上自衛隊の中央特殊武器防護隊(大宮駐屯地)。鉛を服の前面に入れ、ある程度放射線を防げる防護服を装備しているが、横からの放射線には弱く、効果は限定的。防衛省の特注のため一般では手に入らない。

一般が購入できるのは、放水業務に当たる東京消防庁が使う防護服だ。米の化学会社デュポンが製造する「タイベック」という生地を使っている。

ただ、今回の事故で問題となっている放射線(ガンマ線)は防げない。防げるのは、放射能を帯びた「物質」が付着すること。非常にしみにくい素材で作られたレインコートのようなものにすぎない。

ただ、原子力関連施設に従事する作業員がこのような防護服を着用することはまれだ。例えば東北電力の管轄する原発でタイベック製の防護服が使われるのは、原発の格納容器内で機器を分解して作業するときぐらい。原発の点検時でもほとんどが一般的な布製の作業服を着ている。東北電によると「肌をあまり露出せず、作業が終わったあとに体と服をきちんと洗うことで十分足りる」という。

デュポンの日本代理店「旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ」には放射能漏れ後、一般の人からも問い合わせが来始めている。しかし、放射線は防げないことや、基本的に使い捨てであることを聞くと、ほとんどが購入を断念するという。誤解を解くため、同社はホームページの改訂を進めている。

東京湾での津波の危険性も、確かに今回の事例で心配する必要が出てきたのではないのでしょうか。地震だけでも、

今回千葉のコンビニで火災が発生しました。これに津波が重なることは考えたくはないのですが、直接の影響もさることながら、間接的な影響で今回は痛い目にあいませんでしたか、物流に甚大な影響が。

屋形船連合会が今回の教訓として、実効性を高めるために、改善の提案しております。ぜひ、今回の事例でさまざまな計画の実効性を検証されることが望まれます。

また、防護服の購入を検討されている企業も多いようですが、最後の記事を読んで是非慎重に検討されることを願っております。

問い合わせでもお尋ねしましたが、ガイガーカウンターや線量計の購入を検討されている企業も見受けられます。目的と使い方を十分に検討されることをお勧めします。ちなみに白い色の防護服は皆様が新型インフルエンザのときに購入されたものと、同じものはずです。(そうです、備蓄品が使えます。あわてる必要はないのです、もし必要であっても。)

● 3月は期末です。決算発表の準備に注意を。

上場企業は期末から45日で決算発表をすることが義務付けられています。しかし、今回の被害の大きさから、東京証券取引所と金融庁は軽減処置を発表しています。3/18 日経新聞

<http://www.nikkei.com/news/category/article/g=96958A9C93819694E3EAE2E2988DE3EAE2E1E0E2E3E3E2E2E2E2E2E2;at=DGXZZO0195164008122009000000>

(1)決算期末から45日以内とされている決算発表の時期は、決算内容が確定できた段階で開示すればよい

(2)決められた期限までに有価証券報告書などを提出できなくても上場廃止の対象としない

(3)決算書の監査で監査法人から「適正意見」が得られなくても上場廃止の対象としない

同業他社が発表しているのに自社が遅れると、あらぬ詮索も招きかねません。念のため確認されることをお勧めします。

=====  
Subject: 【参考情報】東日本大震災の企業の対応情報 3/24

食品飲料水などからの放射能の高い値の検出が続いていますが、当然予想されたことである、と冷静なのが我々の理想像ですが。

○ さて、東京都でもペットボトルを配布する処置を発表していますが、その業務は各区市町村であり、都庁に押しかけてももらえません。お住まいの区役所なりに、相談ください。

他の県の配布も同様と考えられますので、市町村で確認ください。

● 危機管理担当者の雑感

しかし、大変な災害になりましたね。

私は津波について調べ、その恐ろしさを知っていたのですが、それは「知っていたつもり」だったことがよくわかりま

した。

原発の件も大変なことになっていますね。NBCR テロとして多少の知識はありましたが、原発から放射性物質が継続して発せられる ことがあることもわかっていた「つもり」でありました。

地震について、私のところでは緊急地震速報を「震度3以上で発報」と設定していたため、奇跡的にM9の地震について緊急地震速報を発報することができました。あの地

震で東京の予測震度が3だったんですね。

東京付近では、緊急地震速報を導入していてもあまり速報は流れなかったようです。後日、他社から「うちでは速報が流れなかったのに、なぜおたくでは流れたのか？」という質問がありました。

私は、この日休暇をとっており自宅にいたので実際の様子はわかりませんでしたが、交通機関が止まり、施設内に250名程宿泊しなければならない状況になりました。

備蓄非常食や簡易毛布などを配布し、朝は買い出しをして朝食の炊き出しを行いました。日頃から炊き出し訓練などを実施していたため、スムーズにできました。

私が不在でも、有事の際に対応できるように準備は進めていたのですが、まだ十分ではないことがわかりました。有事の際に私がそこに居ることで、いろいろな対応ができるとの思いが心のどこかにあったと思います。細かい点で、まだ不完全な箇所を今後改める箇所がわかり、その対応策をねっています。

その反面、無駄のような気がしていた炊き出し訓練などいろいろなこと役に立ち、これまでの進め方は間違っていなかったとわかりました。

(上田追記: 多くの方も共鳴されることと思います。特に計画等準備を担当されてきた皆様には、一時的に無力感すら感じたのではないのでしょうか。)

○ 「東日本大震災」からの復興への展望と提言」(ファイル添付)

防災都市計画研究所の吉川様から、これからの方向性の提案を頂きました。

(別ファイル【緊急提言】吉川忠寛 110324 参照)

○ 大船渡、陸前高田、大船渡

ジェネスプランニング(株)の三船様が、3月19~22日まで、現地を視察されてきたそうです。

その結果報告が可能なそうですので、ご希望の方はご一報ください。

● ある外資系企業(金融)

本社の指示で外国人マネジメント層は、東京以外の国内、または海外に避難を継続しています。

先週は、週の初めにいったん帰宅指示が出て、その後は上長の判断で出社要請し、従業員の同意を得て出社という体制でした。

同意出社、自宅待機ともに出社扱いでした。また、出社する従業員には業務災害、通勤災害も通常と同様の扱いを行っていました。



漸く本日から通常出社としましたが、今度は水道水問題で、一部従業員は不安視をしていることも事実です。乳幼児のいる者で、遠方に実家があれば妻子はそちらに避難させているケースも聞きます。

業務部門は、部門によって東京以外への移転を行いました。来週初めには、大半を東京に戻す予定でいます。一方、計画停電地域のコールセンターでの業務の捌きには大変苦労しています。停電対象外の既存施設に機能移転をすすめ、これは当面継続します。実際、お客様から電話の繋がりにくい状況となり、少なからぬ苦情に至ったものです。

私個人も地震発生日には、帰宅困難者として約13.4Km 歩き、3時間少々かけて帰宅しました。靴の影響もありましたが、せいぜい15Km +  $\alpha$ 、健脚な人でも20Km がいいところかな、と思い知らされました。

上田追記: 外人マネジメント層だけ逃げ出して、けしからんと思った方。海外拠点の日本人駐在だけ特別扱いしていませんか。同じことをしないように、注意が必要です。

---

**Subject: 【情報】 東日本大震災 富田カメラマン緊急報告会**

ALL311 東日本大震災協働情報プラットフォーム主催の被害地からの報告会のお知らせです。  
ボランティア関係の方、ご興味のある方、直接お申し込みください。  
是非カンパのご協力もお忘れなく。

なお、ALL311: 東日本大震災協働情報プラットフォームは <http://all311.ecom-plat.jp/> です。

-----  
未曾有の大震災となっしまい、多くの方々がまだ心の動揺もおさまらない最中かと存じます。

有珠山被災者でプロカメラマンの富田氏が、13日から21日にかけて現地取材し、見て聞いてきたことその全てを報告してくれる機会を設けます。取材地は、東松島市、気仙沼、石巻、南三陸町、仙台市、大槌町の6市町です。

報道では流れない厳しい現実も見ることになります。  
被災地の状況をしっかり目に焼き付けて、今後の救援活動にとりくみたいと思います。  
ボランティアに入る人も必見といえます。

現地の食糧事情、交通事情、燃料事情、宿泊事情も説明します。

富田氏はすぐにまた現地入りする予定なので、その費用のカンパも含め参加費は2000円を予定しています。  
(本人はカンパは”2000円～”と期待していますが・・・)

セミナー名: 東日本大震災 富田カメラマン緊急報告会  
日時: 3月25日(金) 18:00-20:00

会場:日本アイ・ビー・エム 本社 1階 AV ルーム

東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

<地図>

<http://www-06.ibm.com/ibm/jp/about/office/map/hq.html>

<受付>

1F 総合受付にてバッジを受け取りご入館下さい。

申し込み:

- ・会場の提供連絡も含め、申し込みは市川まで。
- ・ichikawa@rescuenow.co.jp
- ・タイトル「富田氏報告会申し込み」
- ・氏名、所属、連絡先を記入ください。

急なご案内になりますが、どうぞご参加くださいませ。